

第 1 章 小牧市の市勢

第1章 小牧市の市勢

1. 市の概況

(1) 概要

本市は名古屋市の北約 15km に位置し、東西の距離は 14.82km、南北の距離は 9.22km、市域の面積は 62.82k m²となっています。

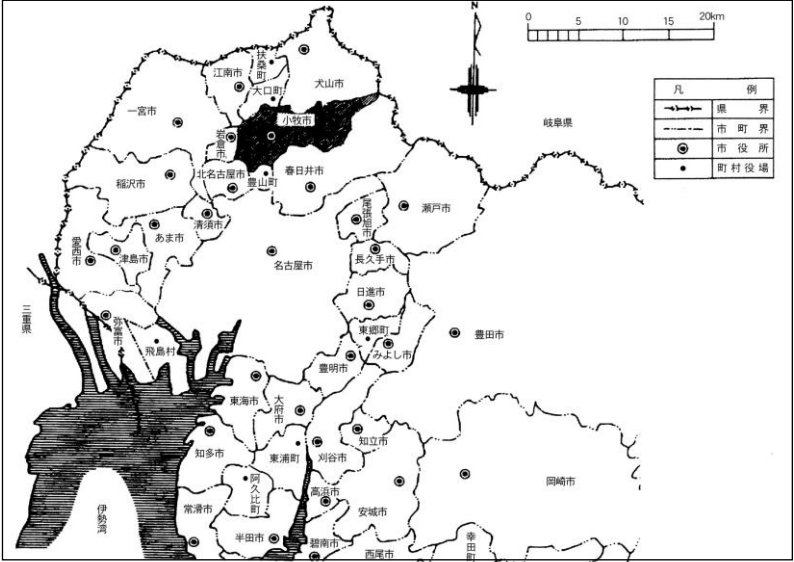
昭和 30 年に愛知県下 21 番目の市として産声をあげ、名神・東名高速道路、中央自動車道の結節点として、さらに県営名古屋空港を擁するなど恵まれた広域的交通条件を生かし、内陸工業都市として飛躍的な発展をしてきました。また、本市のシンボルである史跡小牧山をはじめとする多くの歴史的資産も有し、豊かな自然と文化の薫るまちでもあります。

図表 小牧市の概要

面積	➤市の位置及び面積 62.82 k m² (東西最長 14.82km 南北最長 9.22km) ➤民有地面積 (平成 24 年 1 月 1 日現在) 3,974ha (田 656ha, 畑 494ha, 宅地 2,156ha, 山林 191ha, 原野 20ha, 雑種地 453ha, その他 4ha) ➤区域区分 市街化区域 28.49 k m²、調整区域 34.33 k m²
人口	➤総数 153,410 人 (男 : 77,779 人、女 : 75,631 人) ➤世帯数 62,957 世帯 (1 世帯当たりの人員 : 2.44 人) ➤人口密度 2,442.1 人/k m² (平成 24 年 10 月 1 日現在)
主な交通網	➤鉄道路線及び駅数 名鉄小牧線 6 駅 (田県神社前駅、味岡駅、小牧原駅、小牧駅、小牧口駅、間内駅) ➤高速道路 東名高速道路、名神高速道路、名古屋高速道路、中央自動車道 ➤空港 県営名古屋空港

(出典 : 小牧市統計年鑑平成 25 年度版)

図表 位置図



(出典 : 市政概要)

（２）沿革

昭和30年（1955年）1月1日、小牧町、味岡村、篠岡村の3町村が合併し、人口約3.2万人、県下21番目の市として誕生。昭和38年（1963年）には北里村と合併して、現在の市の規模となりました。昭和34年（1959年）、当地方に未曾有の被害をもたらした伊勢湾台風による復興を契機に、農業依存からの転換と財政基盤の確立のため、積極的な工場誘致と大型団地の誘致を図ってきました。高度経済成長期に入ると、中部の空の玄関名古屋空港、さらには名神高速道路・東名高速道路・中央自動車道の3大ハイウェイの結節点という立地条件にも恵まれ「小牧菜どころ米どころ」といわれたかつての田園都市から、陸上交通要衝都市の性格を有する内陸工業都市へと大きく変貌し、中部の中核都市へと発展しました。

また、小牧市を大きく変貌させた事業の1つに桃花台ニュータウンの建設事業があります。桃花台ニュータウンは、愛知県を事業主体として、322ヘクタールの新住宅市街地開発事業により開発が進められました。

さらに、平成13年には名古屋都心部と小牧インターチェンジを直結する名古屋高速道路高速11号小牧線が開通し、陸上交通要衝としての地位をさらに確固たるものとししました。

（３）地域コミュニティの状況

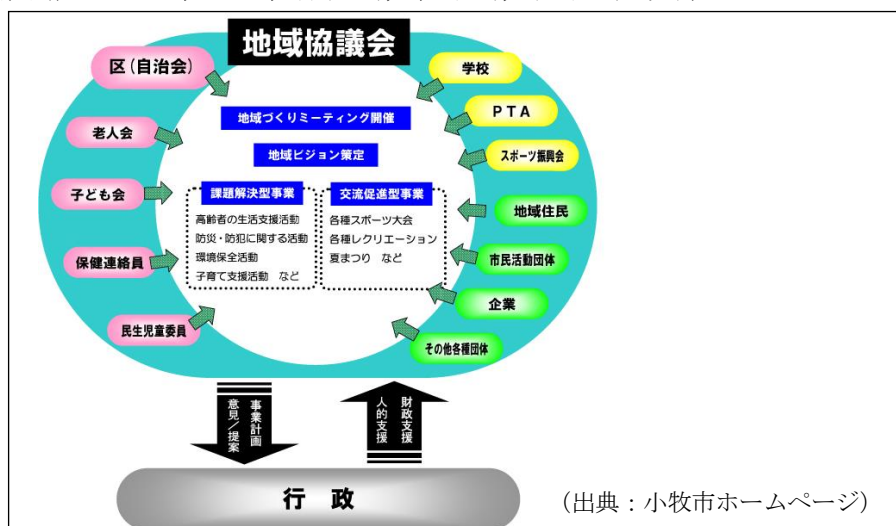
区（自治会）は、一定の区域を単位として、その地域の住民同士が助け合って住みよいまちづくりをしていくために、住民や事業所などによって自主的に組織された団体です。

現在、本市には128の区（自治会）があり、防犯灯やごみ集積場の設置・維持管理、夏まつりや防災訓練などの様々な活動が行われています。

しかしながら、近年の都市化の進展やライフスタイルの変化、価値観の多様化などを要因とした地域の“絆力”の低下や少子高齢化の進行などの背景から、「役員のなり手不足」や「行事参加者の減少・固定化」などの悩みを抱えている区（自治会）も少なくありません。さらに、区（自治会）に限らず老人クラブや子ども会などの既存の各種地域団体についても役員の固定化や会員の減少などといった問題から組織力が低下しつつあります。

そこで、本市では地域で助け合う・支えあうための新しい仕組みづくりとして、小学校区単位を基本とした新たなコミュニティ組織である「地域協議会」の設立を進めています。「地域協議会」は、低下した地域の“絆力”を高め、区（自治会）をはじめとした各種地域団体や地域住民の方々が連携・補完しあい、区（自治会）より広域で地域活動を効果的・効率的に行う新しいコミュニティ組織です。

図表 地域協議会イメージ



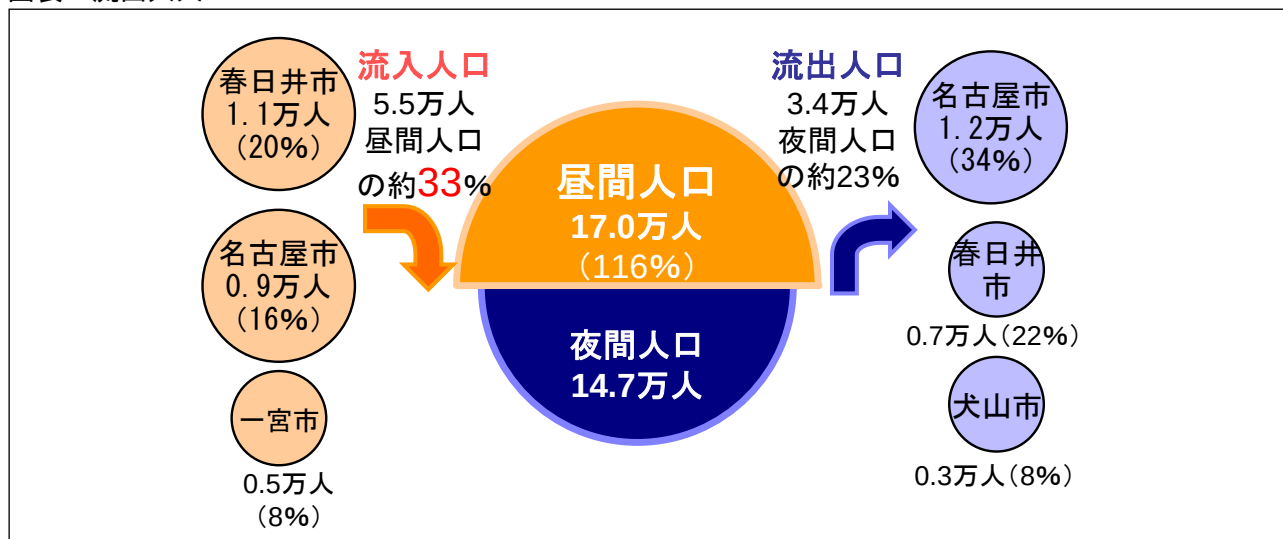
(4) 市民の1日の流出入状況

本市は、昼間人口が夜間人口を16%上回る、流入超過都市となっています。

流入人口は春日井市や名古屋市等の周辺市町から5.5万人流入しており、昼間人口の33%を占めています。一方流出人口は3.4万人で夜間人口の23%を占め、名古屋市を中心に、春日井市、犬山市へ流出しています。

このことから、本市は周辺市町の就業の場であるとともに、名古屋市等のベッドタウンとしての2つの性格を有する都市であることがわかります。

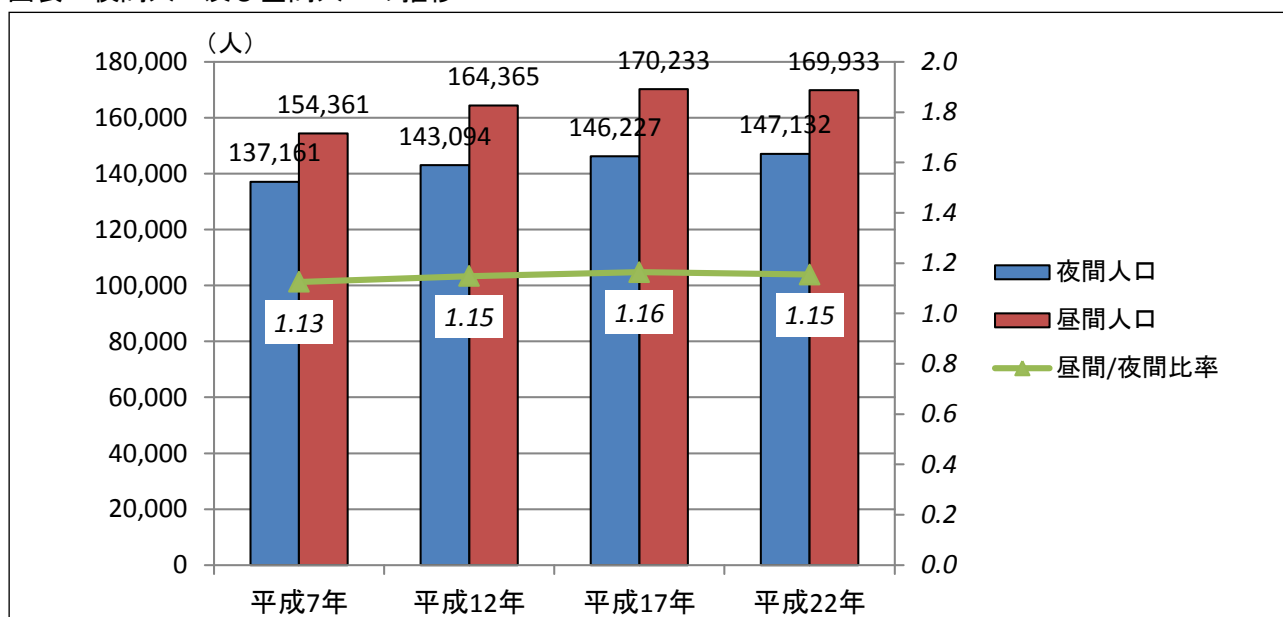
図表 流出入人口



(出典：平成22年国勢調査)

平成17年までは夜間人口の伸びを上回る昼間人口の増加があり、昼間・夜間人口比率は上昇していましたが、平成22年にかけては、夜間人口が増加し続けている一方、市内で働く退職者等の増加、産業活動・立地の低迷等により、流入人口の減少による昼間人口の減少がみられます。

図表 夜間人口及び昼間人口の推移



(出典：平成22年国勢調査)

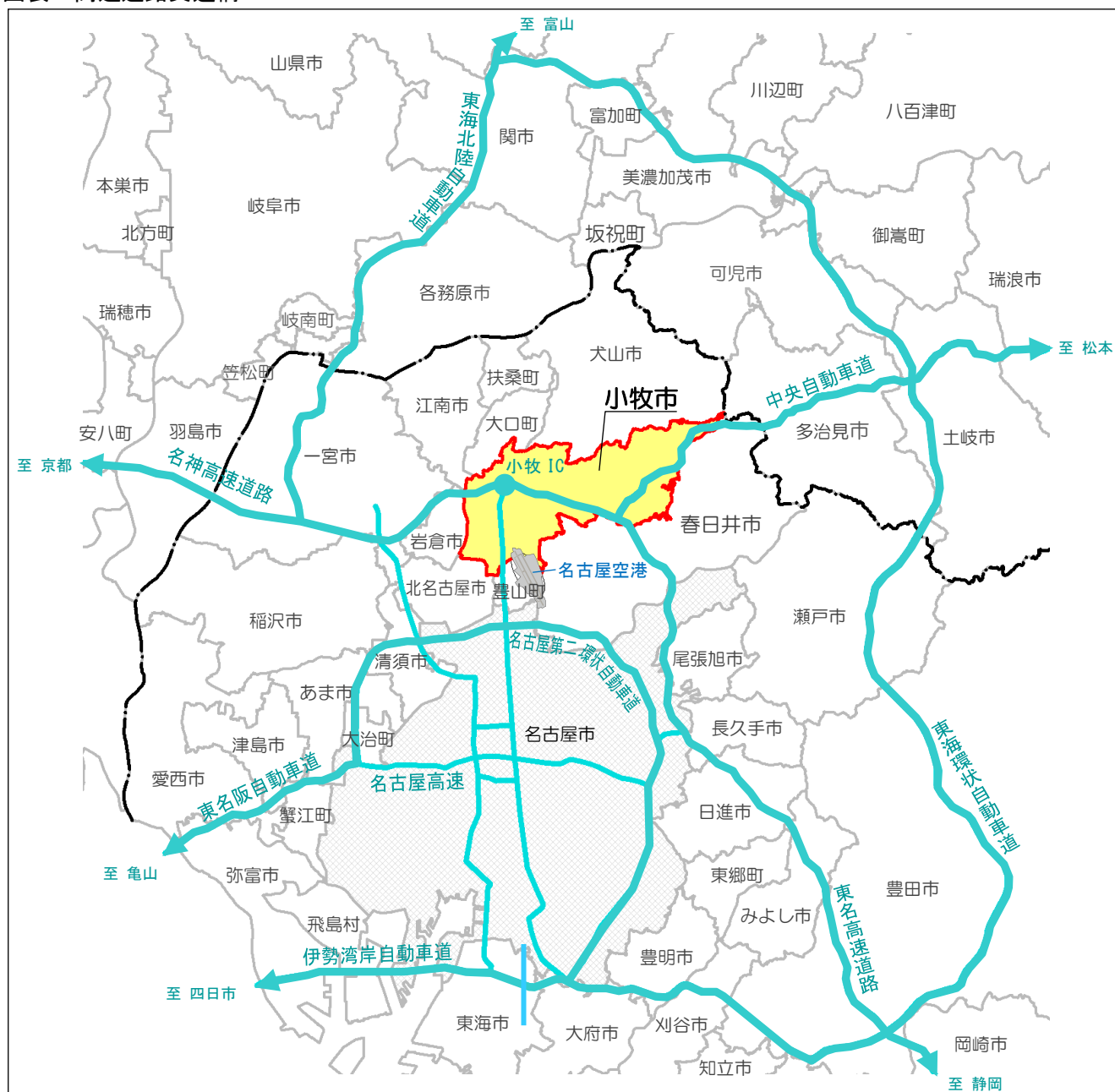
(5) 交通状況

本市は、東名高速道路、名神高速道路、中央自動車道の3大ハイウェイの結節点であり、かつての中部地方の空の玄関口であった名古屋空港にも至近であるという立地条件から、交通の要衝として発展してきました。その後名古屋高速11号小牧線の開通など、道路網は充実してきました。

公共交通については、名鉄小牧線が市内を南北に縦断し、バス路線が小牧駅と近隣都市とを結ぶなど広域的なネットワークが形成されています。加えて平成10年のこまき巡回バス運行開始や平成15年の名鉄小牧線と名古屋市営地下鉄を接続する上飯田連絡線開通など、公共交通の充実化も図られています。一方、平成18年の新交通システム桃花台線の廃止や交通事業者によるバス路線の撤退等、市内の公共交通を取り巻く環境は年々厳しくなっています。

こうした状況下で、平成23年に「小牧市総合交通計画」を策定し、「地域の活力を育み、地域が支える持続可能な交通体系」の確立を目指し、公共交通の充実と利用促進等の施策を実施しています。

図表 高速道路交通網



(出典：道路地図(アトラス)をもとに作成)

2. 市の人口特性

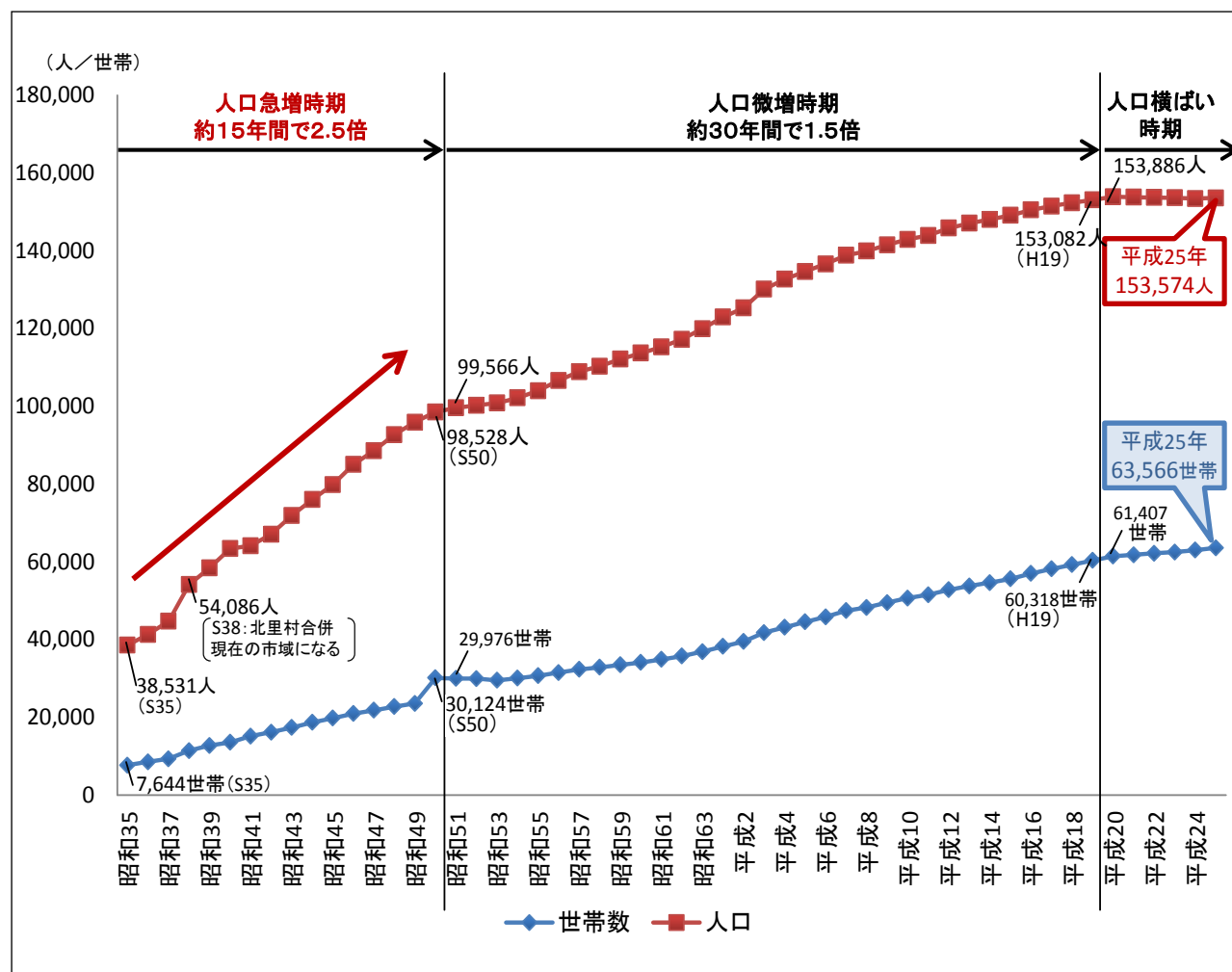
(1) 市の人口推移

■ 人口推移

人口は、昭和30年の3町村合併前は約3.2万人であったのが、交通の要衝である立地条件を活かした企業誘致等による産業都市としての発展、及び昭和43年の桃花台ニュータウン事業開始等による名古屋大都市圏のベッドタウンとしての成長により、急激な人口増加を遂げ、平成20年には約15.4万人となっています。平成20年以降は、横ばい傾向となっています。

世帯数は、昭和35年7,644世帯から一貫して増加傾向が続いており、平成25年は6万3,566世帯となっています。1世帯当たり平均人数は、昭和35年5.0人/世帯から、平成25年2.4人/世帯と約半数に減少しています。

図表 小牧市の長期人口推移



（出典：各年10月1日現在住民基本台帳）

※ 登録人口の世帯のうち準世帯については、昭和49年までは、一棟一世帯でしたが、昭和50年からは一人一世帯となっています。

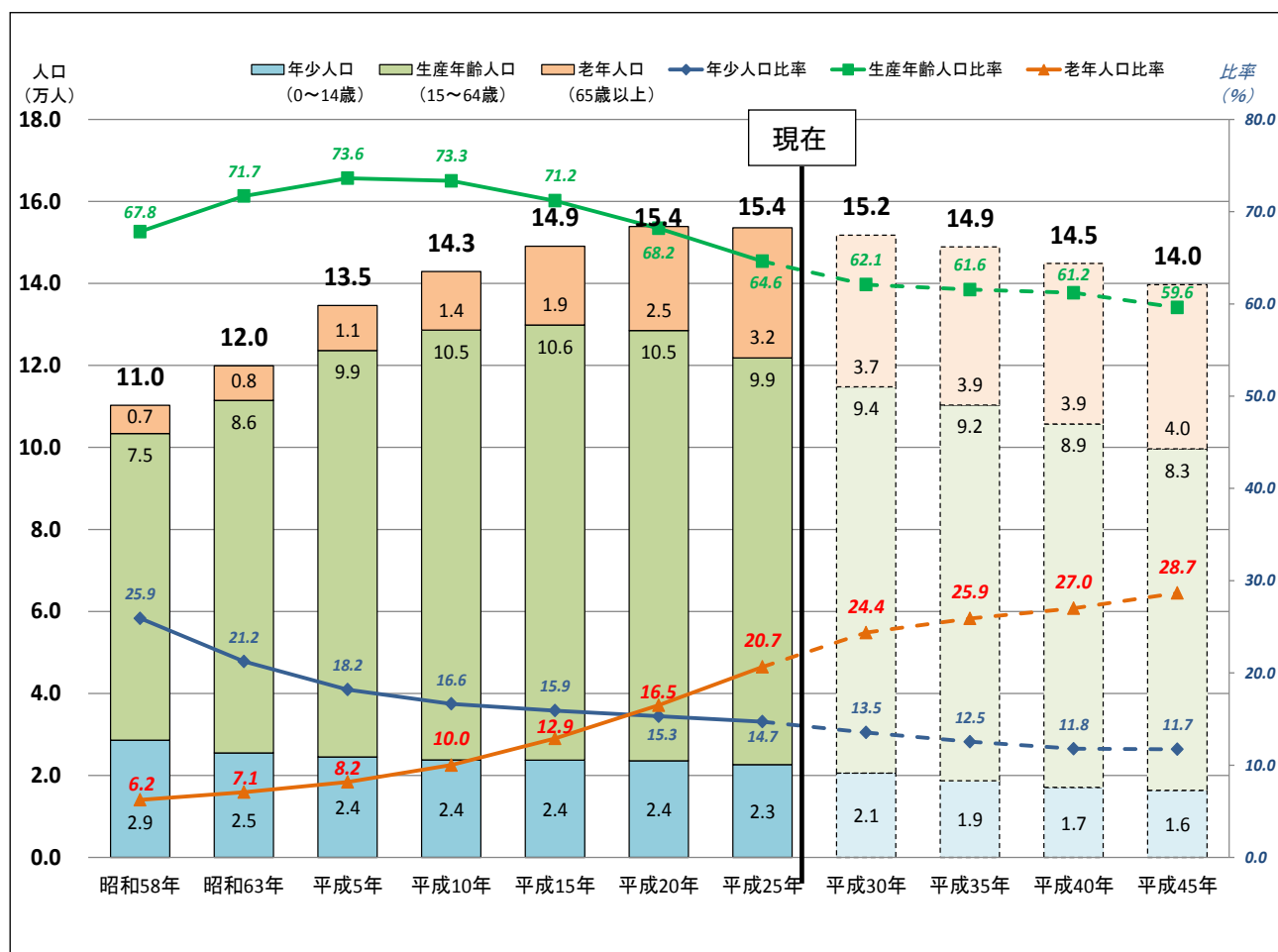
■ 3 階層別人口推移及び将来予測

平成20年の住民基本台帳ベースで将来の人口推計を行った場合、平成45年までに約9%減少の約14.0万人と、平成初期の水準となることが予想されます。

更に、平成5年と平成45年の年齢構成を比較すると、平成5年では生産年齢人口（15～64歳）は、構成比で73.6%と高い水準でしたが、平成45年では59.6%まで低下、1.6万人程の減少となることが推計されています。また、平成5年で年少人口比率は18.2%、老年人口比率は8.2%であったのが、平成45年では、年少人口比率は11.7%と0.8万人程の減少、老年人口比率は28.7%と4倍近い水準となることが推計されております。

こうした将来人口の規模、構成の大きな変化は、公共施設サービスの需要量と内容に大きな影響を与えるものと考えられる他、生産年齢人口の減少は個人市民税収の減少を通じて、財政制約がますます強まってくることが想定されます。

図表 年齢階層別人口推移（実績・将来推計）



（出典：住民基本台帳、小牧市全体のすう勢型推計人口）

■ 5歳階級別人口推移及び将来予測

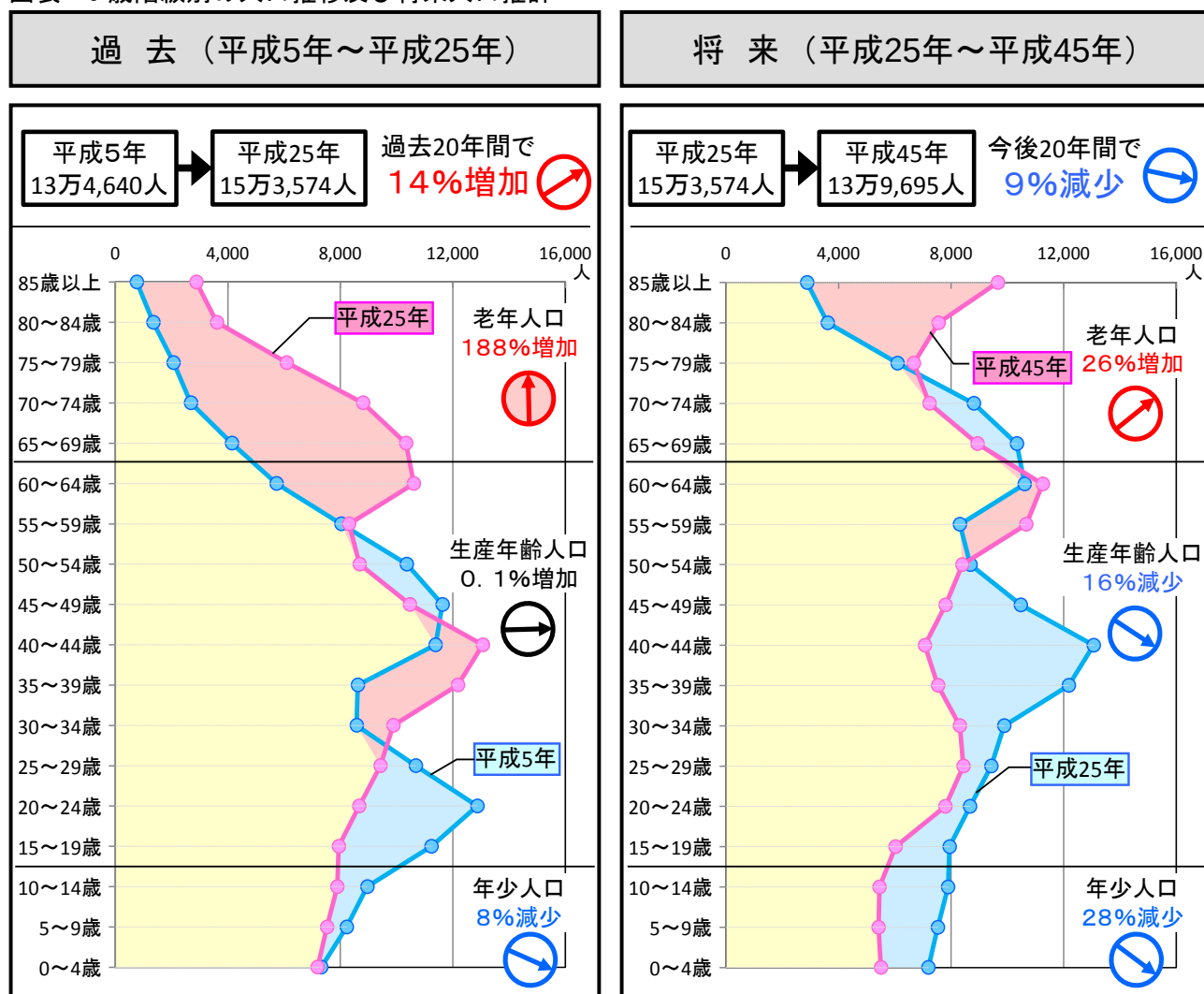
平成5年から平成25年までの20年間は、約14%増加してきましたが、今後は減少傾向が続き、平成45年までの20年間は約9%の減少と予測されます。

年齢別の内訳をみると、これまでの20年間は老年人口が約2倍に増加し、30代から40代の生産年齢人口も増加してきました。しかし、すでに20代以下の世代では大幅な減少傾向となっています。

今後の20年間は、市全体の人口は減少しますが75歳以上の高齢者はまだまだ増加予測となっています。しかし50代以下の世代では大幅な減少予測となっており、より少子高齢化が進展することがわかります。

このように、今後20年間で人口構成が大きく変化し、求められる行政サービスの変化に対応する必要があると考えられます。

図表 5歳階級別の人口推移及び将来人口推計



（出典：住民基本台帳、小牧市全体のすう勢型推計人口）

3. 地区等の特性

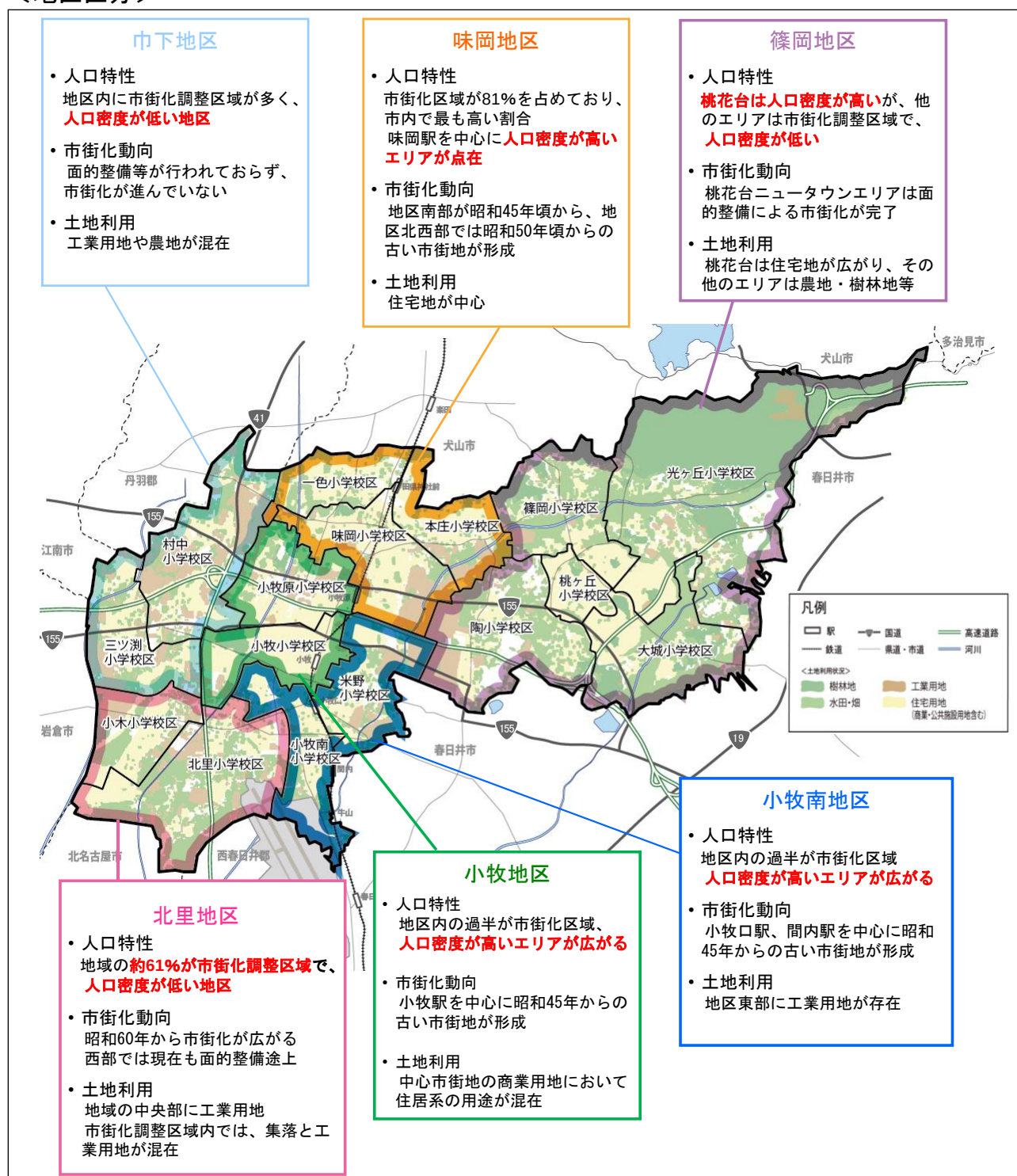
(1) 地区区分

本市では、16 小学校区をベースとした 6 地区に区分されています。

6 地区は、市役所が立地し市の行政の中核機能が集中している小牧地区、名鉄小牧線の駅を中心に市街地が形成されている小牧南地区、味噌地区、工業用地や農地が混在する巾下地区、北里地区、桃花台ニュータウンにより面的整備が行われた篠岡地区となっています。

各地区とも、2～5 小学校区で構成されています。

<地区区分>



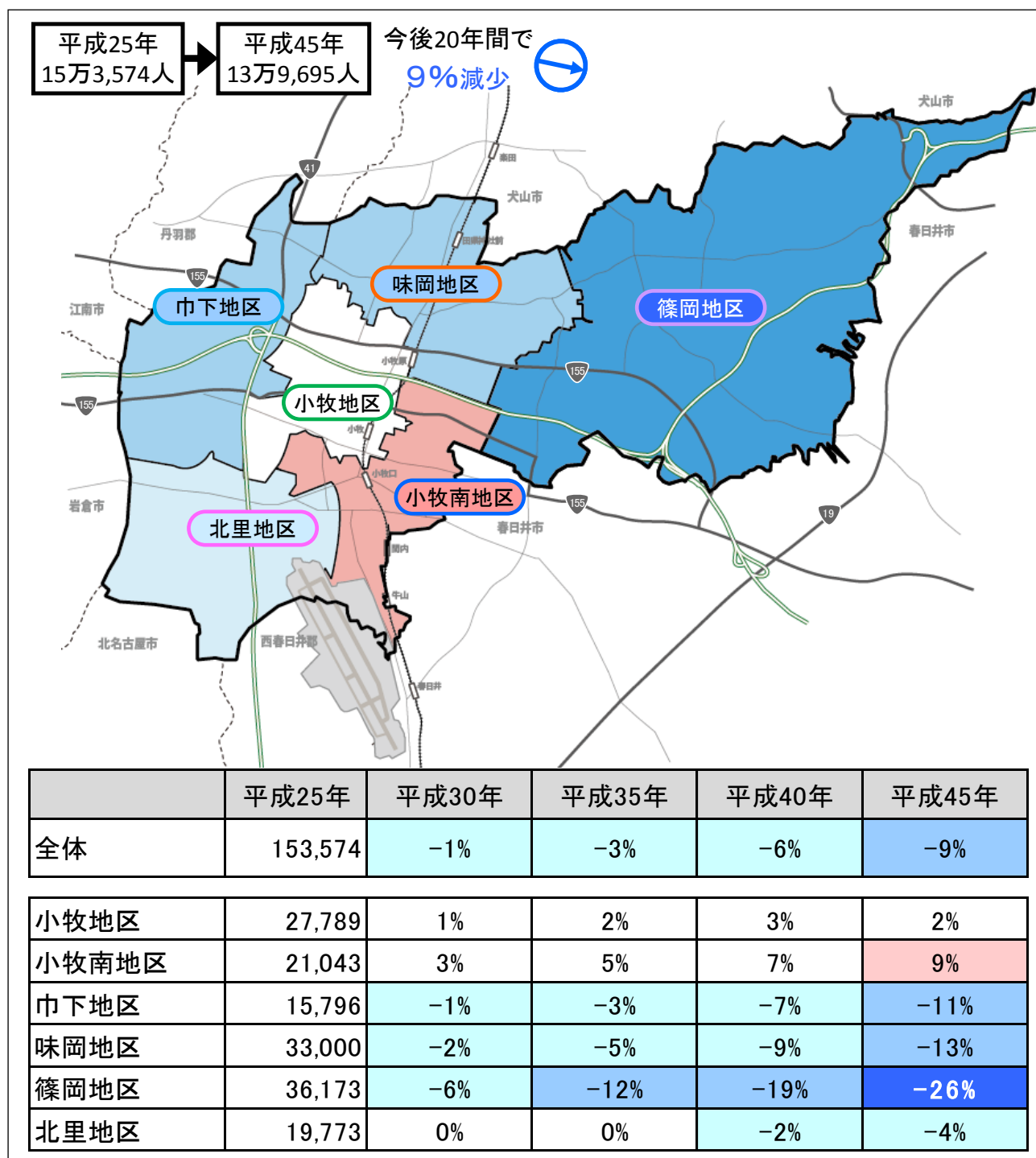
(出典：都市計画マスタープランをもとに作成)

(2) 地区別・年齢階層別の人口の状況

＜将来人口変化＞

平成25年から平成45年までの地区別の人口変化をみると、小牧駅周辺の小牧地区は横ばい傾向、小牧南地区が増加傾向と予測されるほかは、減少すると予測されます。特に、篠岡地区が26%減少と最も大きく減少すると予測され、地区によって大きく異なります。

図表 地区別の将来人口変化率



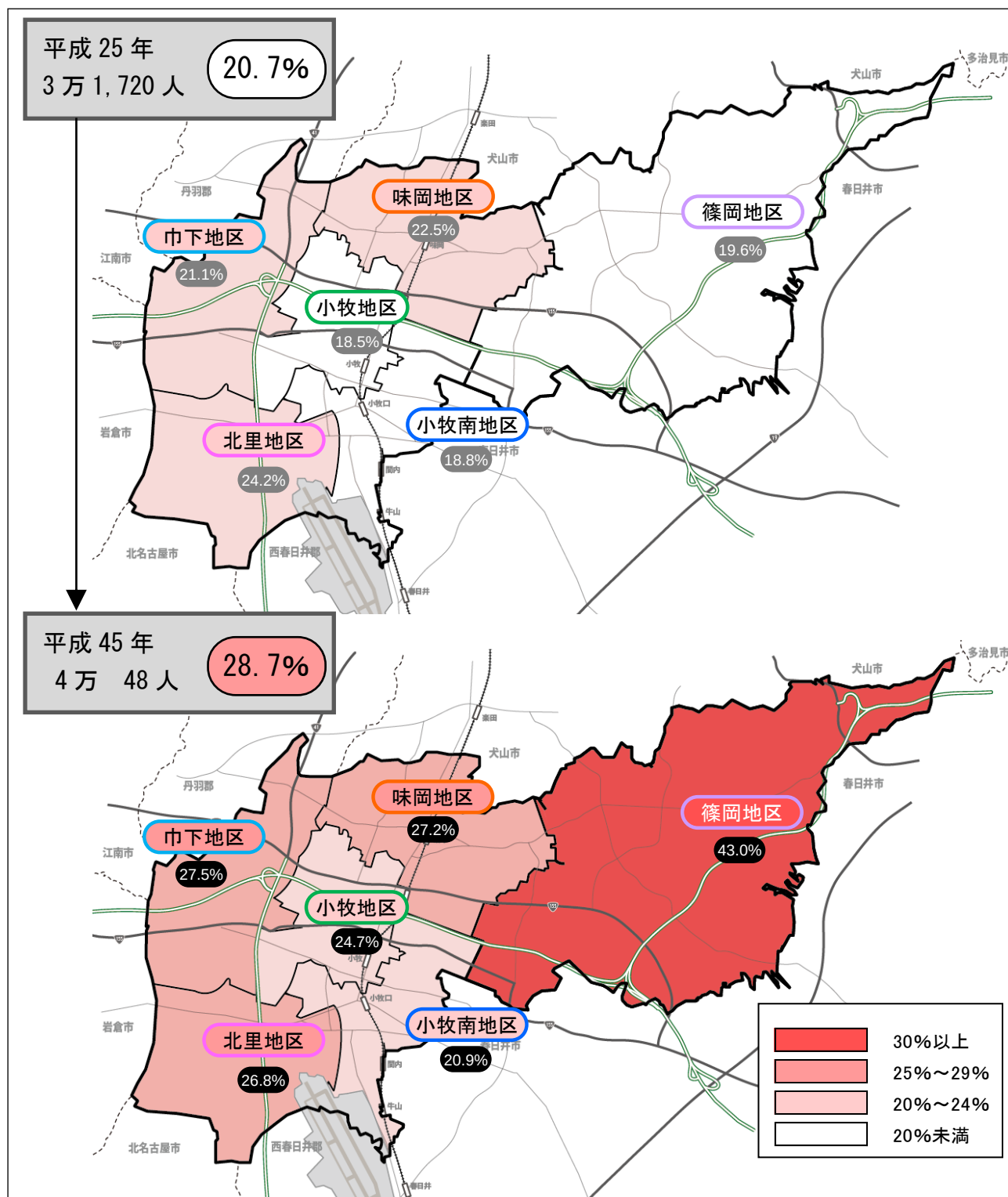
(出典：住民基本台帳、小牧市全体のすう勢型推計人口)

＜高齢化率＞

平成 25 年は、市全体で 21% であり、最も高い北里地区においては 24% となっていますが、平成 45 年までの 20 年間で 29% まで増加すると予測され、急激な高齢化が予測されます。地区ごとの変化でみると、小牧駅周辺の小牧地区及び小牧南地区は増加するものの市の平均よりは低い高齢化率であり、巾下地区、味岡地区及び北里地区は市平均並の高齢化率となります。

篠岡地区は、平成 25 年は 20% 程度の割合でしたが、平成 45 年には 43% と今後 20 年間で急激に増加すると予測されます。

図表 地区別高齢化率の変化



(出典：住民基本台帳、小牧市全体のすう勢型推計人口)

(3) 6地区ごとの特性の把握

小牧地区

1) 地区の特性

本市の人口の約18%を有しています。6地区の中でも市街化区域の占める割合が高く、特に小牧駅周辺は人口密度が高くなっています。

土地利用の現況は、住宅用地が中心となっていますが、小牧駅周辺の中心市街地では都市的・未利用地（その他空地）が多くみられます。

DID(※)の変遷からは、名鉄小牧線周辺で昭和45年から古い市街地が形成されていることが分かります。

2) 人口構成変化

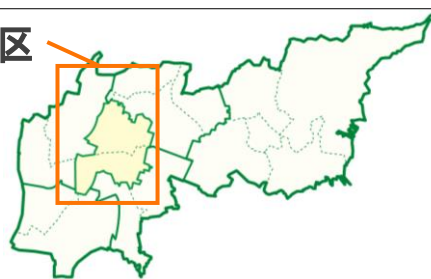
小牧地区の人口は平成25年で約2.8万人となっており、今後も人口が増加すると推計されており、20年後の平成45年の人口は約2.8万人と約2%増加の見込みです。

内訳をみると、老年人口は36%増加の見込みで、特に75歳以上の年齢層が急激に増加すると予測されます。

生産年齢人口は3%微減傾向ですが、50代以上の人口が増加していることから、平成45年以降は急激な高齢化が進むと考えられます。

※ DID:「人口集中地区」と言い、人口密度が4,000人/k㎡以上の基本単位区等が市区町村の境域内で互いに隣接して、それらの隣接した地域の人口が国勢調査時に5,000人/k㎡以上を有する地域のこと

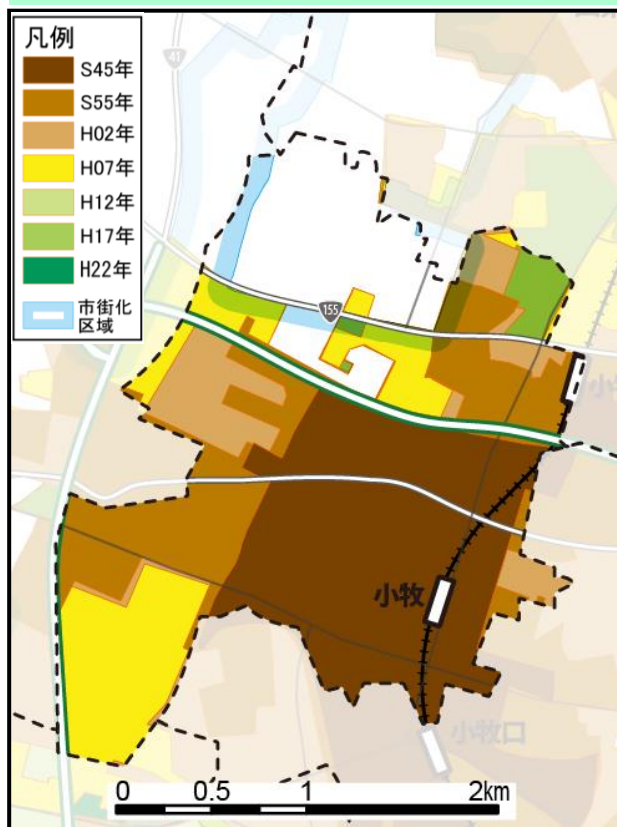
小牧地区



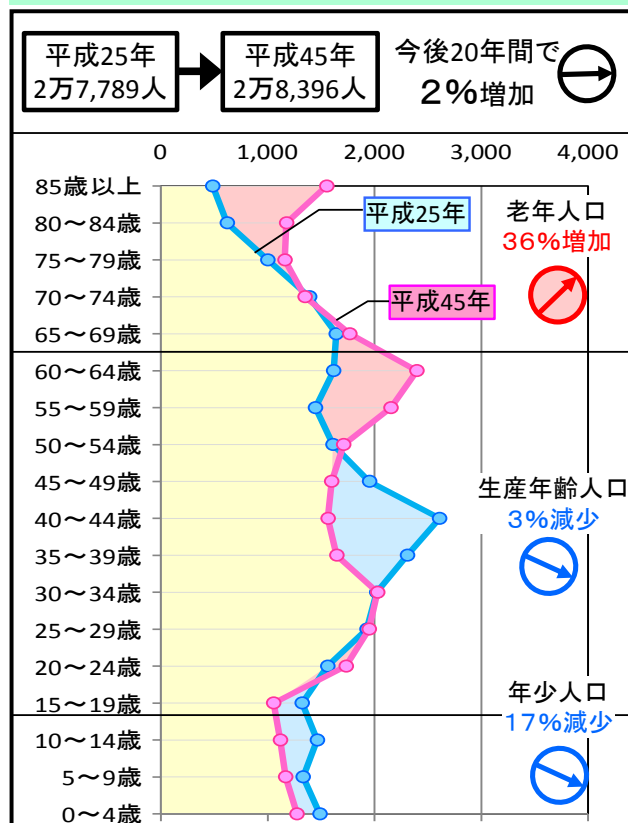
図表 主要指標（平成25年10月1日時点）

		小牧	市全体
面積(k㎡)		5.2	62.82
人口(人)		27,789	153,574
人口密度(人/k㎡)		5,344	2,445
年齢3区分別人口	老年人口	5,137 人	31,720 人
		18.5%	20.7%
	生産年齢人口	18,369 人	99,248 人
		66.1%	64.6%
	年少人口	4,283 人	22,606 人
		15.4%	14.7%

図表 DID変遷図



図表 5歳階級別の人口推移



小牧南地区

1) 地区の特性

本市の人口の約14%を有しています。6地区の中でも市街化区域の占める割合が高く、特に間内駅周辺は人口密度が高くなっています。

土地利用の現況は、地域南東部では工業系土地利用が多くみられます。

DIDの変遷からは、名鉄小牧線周辺で昭和45年からの古い市街地が形成されていることが分かります。

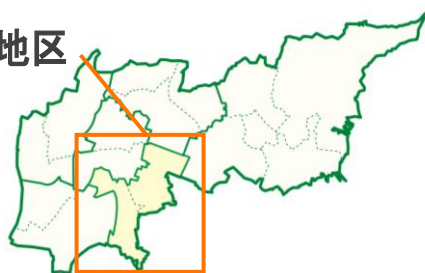
2) 人口構成変化

小牧南地区の人口は平成25年で約2.1万人となっており、今後も人口が増加すると推計され、20年後の平成45年の人口は約2.3万人と約9%増加する見込みです。

内訳をみると、老年人口は21%増加する見込みで、特に75歳以上の年齢層が急激に増加すると予測されます。

生産年齢人口は11%増加となっており、小牧地区に比べ、20代から30代は増加予測となっています。

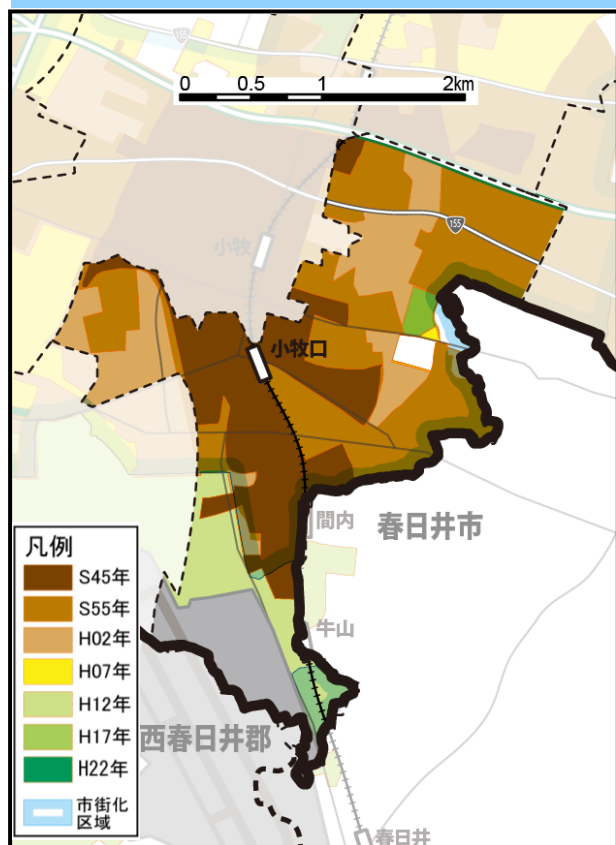
小牧南地区



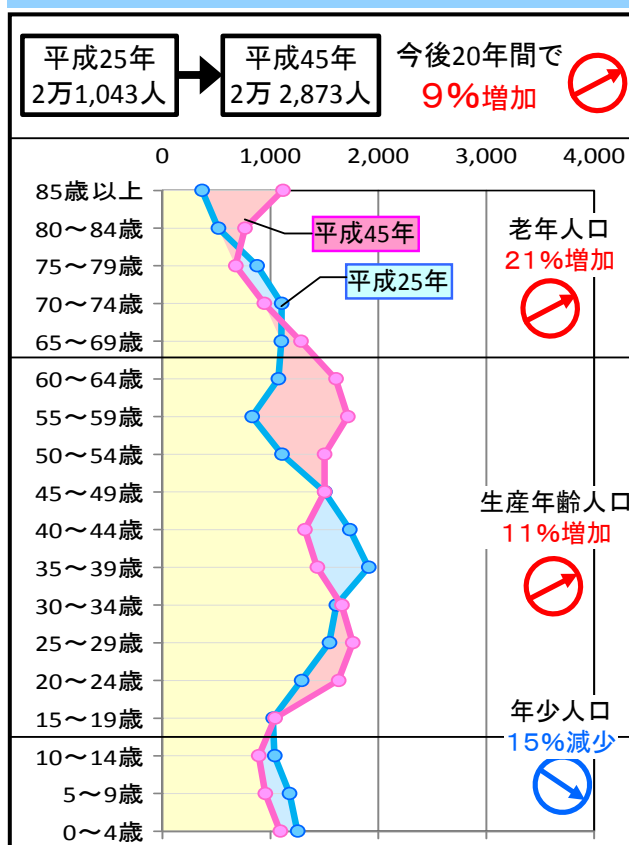
図表 主要指標（平成25年10月1日時点）

		小牧南	市全体
面積(km ²)		5.6	62.82
人口(人)		21,043	153,574
人口密度(人/km ²)		3,758	2,445
年齢3区分別人口	老年人口	3,961 人	31,720 人
		18.8%	20.7%
	生産年齢人口	13,617 人	99,248 人
		64.7%	64.6%
	年少人口	3,465 人	22,606 人
		16.5%	14.7%

図表 DID変遷図



図表 5歳階級別の人口推移



巾下地区

1) 地区の特性

本市の人口の約10%を有しています。小牧地区や小牧南地区と比べ人口密度が低い地区です。

土地利用の現況は、工業用地や水田も多くみられ、農・住・工が混在しています。

DIDに設定されていないエリアが多くなっていますが、地区東部では昭和55年代以降DIDが広がってきています。

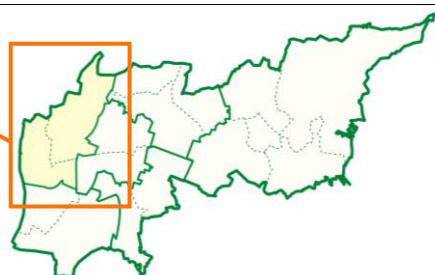
2) 人口構成変化

巾下地区の人口は平成25年で約1.6万人となっていますが、今後は減少傾向が推計され、20年後の平成45年の人口は約1.4万人と約11%減少する見込みです。

内訳をみると、老年人口は16%増加する見込みで、特に75歳以上の年齢層が急激に増加すると予測されます。

生産年齢人口は15%減少となっており、特に年少人口は31%と急激に減少すると予測されます。

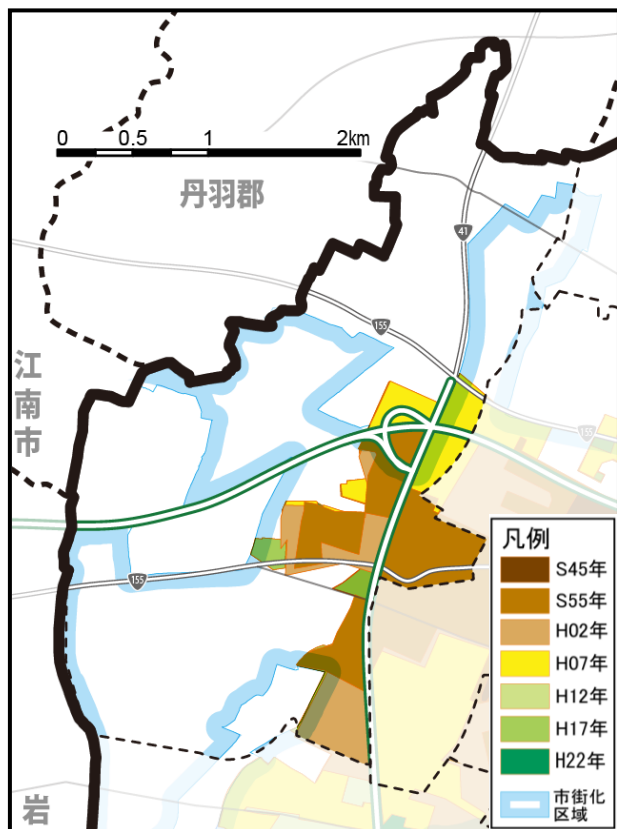
巾下地区



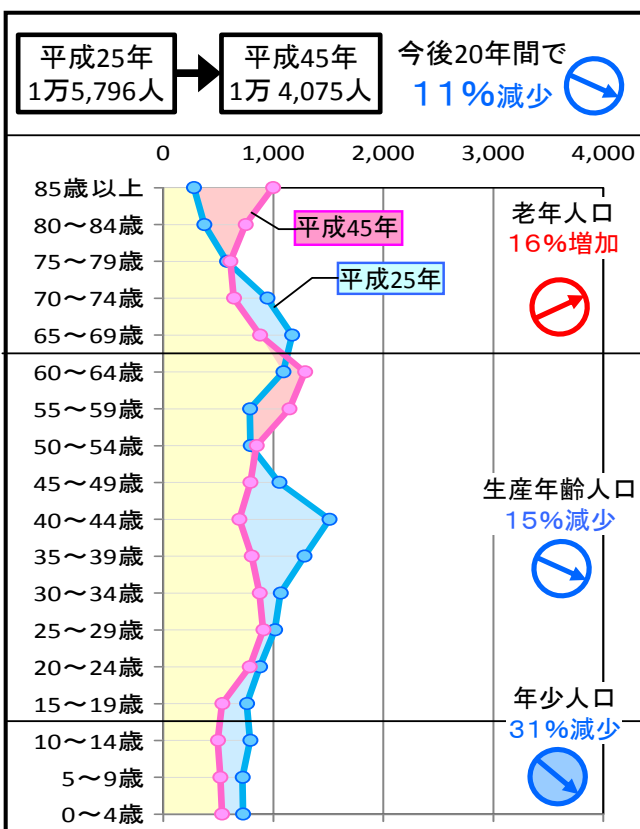
図表 主要指標（平成25年10月1日時点）

		巾下	市全体
面積(k㎡)		8.4	62.82
人口(人)		15,796	153,574
人口密度(人/k㎡)		1,880	2,445
年齢3区分別人口	老年人口	3,338 人	31,720 人
		21.1%	20.7%
	生産年齢人口	10,227 人	99,248 人
		64.7%	64.6%
	年少人口	2,231 人	22,606 人
		14.1%	14.7%

図表 DID変遷図



図表 5歳階級別の人口推移



味岡地区

1) 地区の特性

本市の人口の約21%を有しています。6地区の中でも市街化区域の占める割合が高い地区です。

土地利用の現況は、住宅用地が中心となっていますが、地域南東部では工業系土地利用が多くみられます。

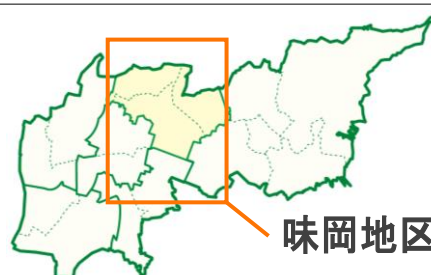
DIDの変遷からは、地域南部では昭和45年から、地域北西部では昭和55年からの古い市街地が形成されていることが分かります。

2) 人口構成変化

味岡地区の人口は平成25年で約3.3万人となっていますが、今後は減少傾向が推計され、20年後の平成45年の人口は約2.9万人と約13%減少する見込みです。

内訳をみると、老年人口は5%微増傾向ですが、その中でも特に80歳以上の年齢層が増加すると予測されます。

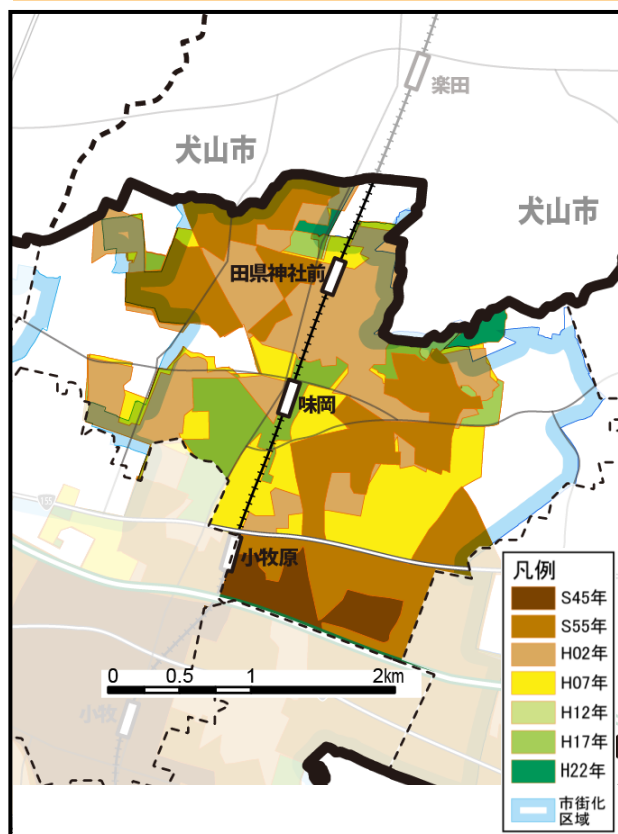
生産年齢人口は14%減少となっており、特に年少人口は35%と急激に減少すると予測されます。



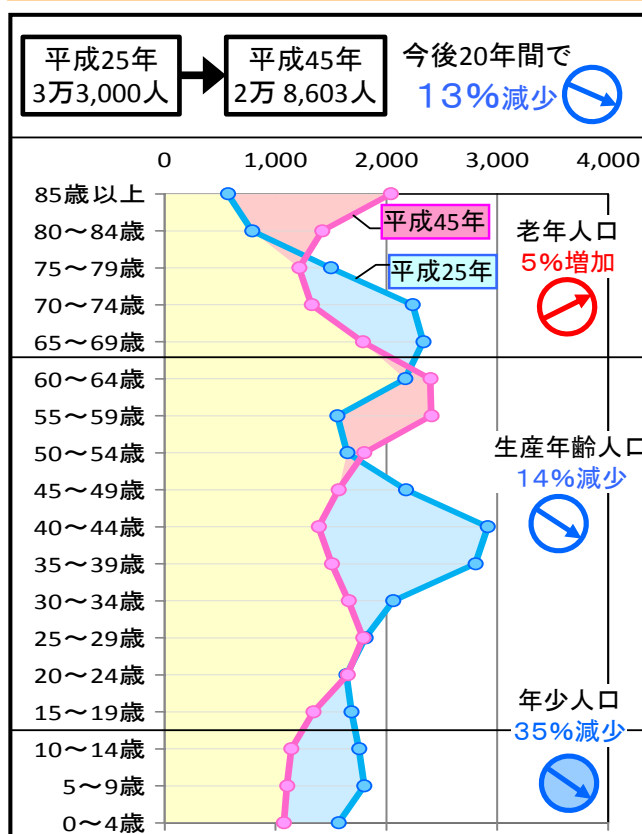
図表 主要指標（平成25年10月1日時点）

		味岡	市全体
面積(km ²)		8.1	62.82
人口(人)		33,000	153,574
人口密度(人/km ²)		4,074	2,445
年齢3区分別人口	老年人口	7,423 人	31,720 人
		22.5%	20.7%
	生産年齢人口	20,458 人	99,248 人
		62.0%	64.6%
	年少人口	5,119 人	22,606 人
		15.5%	14.7%

図表 DID変遷図



図表 5歳階級別の人口推移



篠岡地区

1) 地区の特性

本市の人口の約24%を有しています。6地区の中で市街化区域の占める割合が約16%と最も小さい地区です。

土地利用の現況は、市街化区域である桃花台では主に住宅用地が広がっており、中央にまとまった商業用地を有しています。地域北東部の市街化調整区域では樹林地が広がっています。

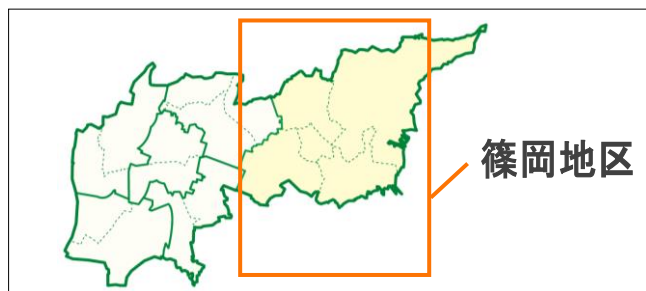
DIDの変遷からは、市街化区域である桃花台で平成2年以降に市街地が広がり、他の地区と比較して新しい市街地が広がっています。

2) 人口構成変化

篠岡地区の人口は平成25年で約3.6万人となっており、今後は減少傾向が推計され、20年後の平成45年の人口は約2.7万人と約26%減少する見込みです。

内訳をみると、老年人口はニュータウンの影響があり一気に高齢化が進むため急激に増加する予測となっています。

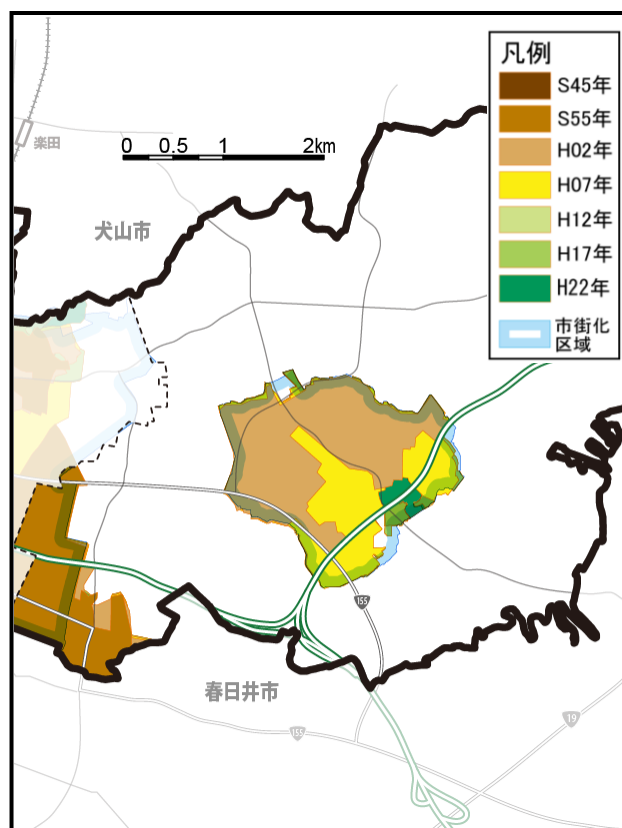
その一方で生産年齢人口は48%の減少予測、年少人口は44%の減少予測となっています。



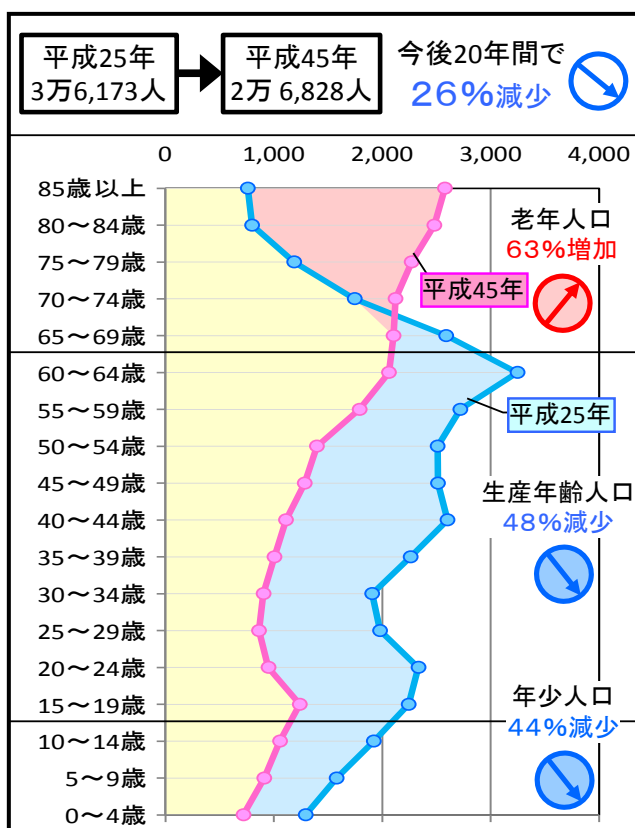
図表 主要指標（平成25年10月1日時点）

		篠岡	市全体
面積(km ²)		27.4	62.82
人口(人)		36,173	153,574
人口密度(人/km ²)		1,320	2,445
年齢3区分別人口	老年人口	7,076 人	31,720 人
		19.6%	20.7%
	生産年齢人口	24,307 人	99,248 人
		67.2%	64.6%
	年少人口	4,790 人	22,606 人
		13.2%	14.7%

図表 DID変遷図



図表 5歳階級別の人口推移



北里地区

1) 地区の特性

本市の人口の約13%を有しています。地域の約61%を市街化調整区域が占めています。

土地利用の現況は、地域西部の市街化区域では住宅用地が中心となっており、地域中央では工業用地が多くみられます。市街化区域内には、空地や畑を主とする都市的低・未利用地が点在しています。

DIDの変遷からは、市街化区域内で平成2年からの市街地が、市街化区域西部では平成7年からの市街地が広がっています。

2) 人口構成変化

北里地区の人口は平成25年で約2.0万人となっており、今後は微減傾向が推測され、20年後の平成45年の人口は約1.9万人と約4%減少する見込みです。

内訳をみると、老年人口は6%増加の見込みで、特に75歳以上の年齢層が急激に増加すると予測されます。

その一方で、生産年齢人口は6%の減少予測、年少人口は14%の減少予測となっています。

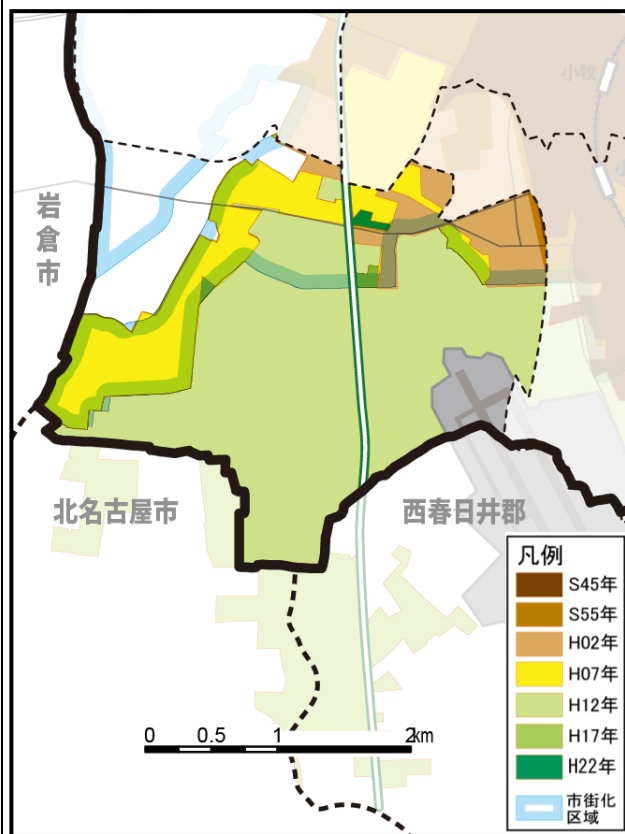
北里地区



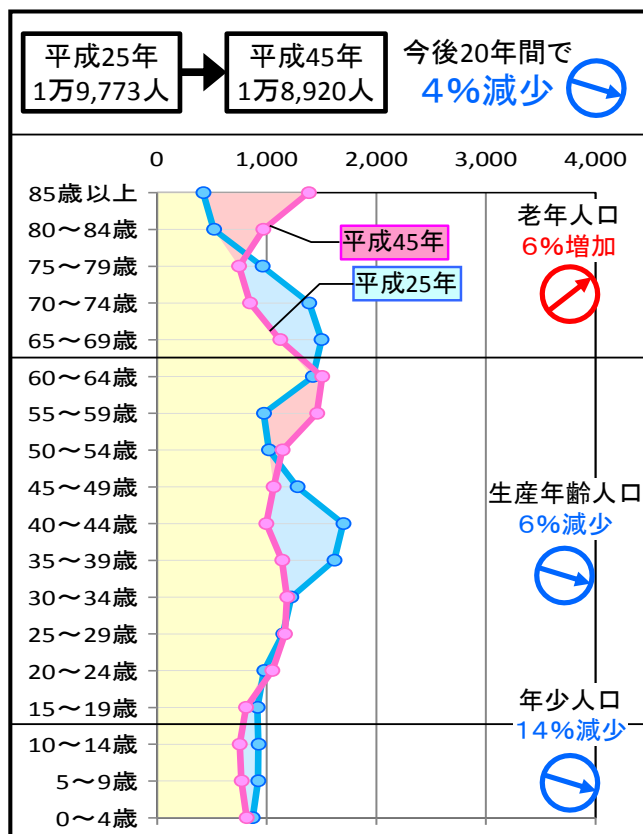
図表 主要指標（平成25年10月1日時点）

		北里	市全体
面積(km ²)		8.1	62.82
人口(人)		19,773	153,574
人口密度(人/km ²)		2,441	2,445
年齢3区分別人口	老年人口	4,785 人 24.2%	31,720 人 20.7%
	生産年齢人口	12,270 人 62.1%	99,248 人 64.6%
	年少人口	2,718 人 13.7%	22,606 人 14.7%

図表 DID変遷図



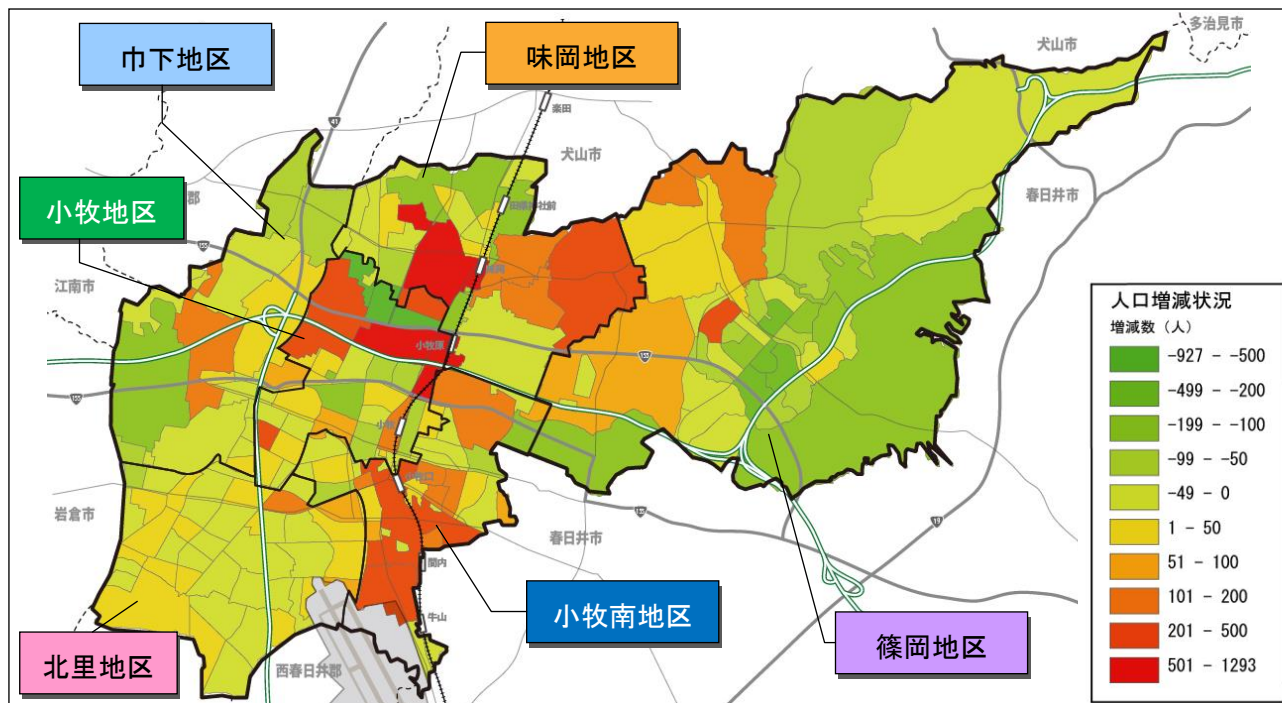
図表 5歳階級別の人口推移



＜地区内の人口変化＞

地区内の人口変化の状況を見ると、人口が大きく増加するところもある一方、人口が減少するところもあり、同一地区内においても人口変化が異なる状況です。

図表 人口変化状況（平成17年⇒平成22年）

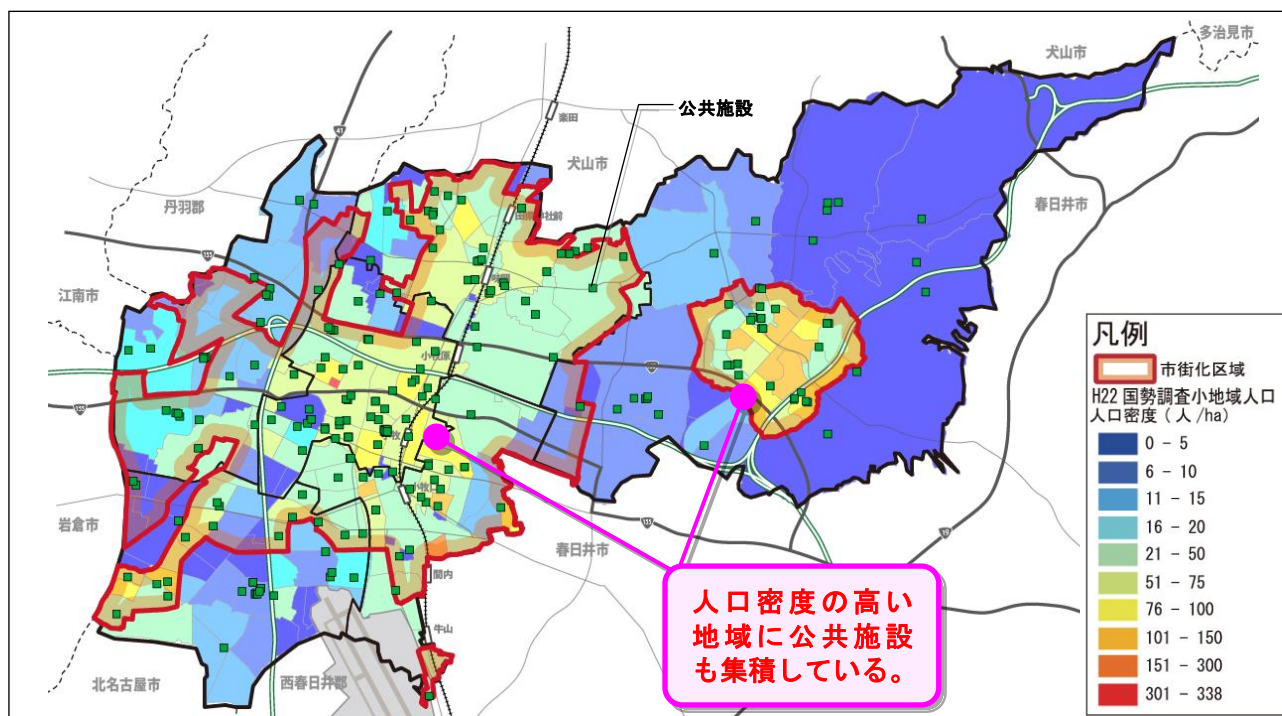


（出典：都市計画基礎調査）

＜市街化区域/市街化調整区域＞

上図と照らし合わせると市街化区域における人口集積が進む一方で、市街化調整区域での人口は減少傾向にあります。但し、市街化区域全体での人口密度は、43.4 人/ha と低位にとどまっています。また、公共施設の配置関係をみると、人口密度の高い地域に公共施設も集積していることがわかります。

図表 人口密度と公共施設配置



（出典：都市計画基礎調査）

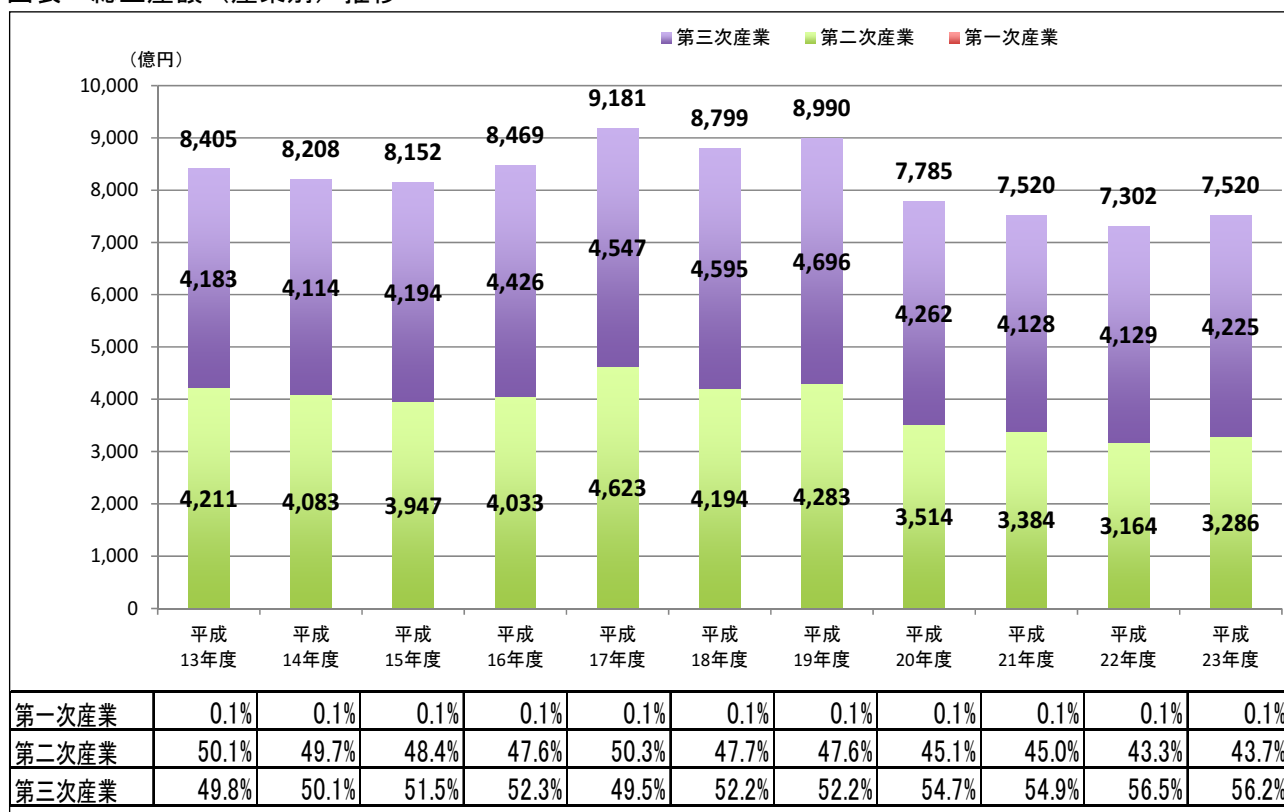
4. 産業の状況

(1) 小牧市の産業構造

平成13年度～23年度の過去11年間の総生産額の推移をみると、平成19年度までは8,000～9,000億円台を推移していましたが、平成20年度のリーマンショック以降、平成23年度までは7,000億円台で減少傾向となっています。

産業分野別には、第一次産業の割合は0.1%とごく僅かとなっています。一方、平成13年度時点では第二次産業が約50%と第三次産業と同じ割合となっており、製造業が本市経済の主要分野であることが総生産額においても把握されます。しかし、平成20年度以降の景気低迷の中、第二次産業の落ち込みが第三次産業を上回り、平成23年度では、第二次産業の割合は40%台前半まで低下しています。

図表 総生産額（産業別）推移

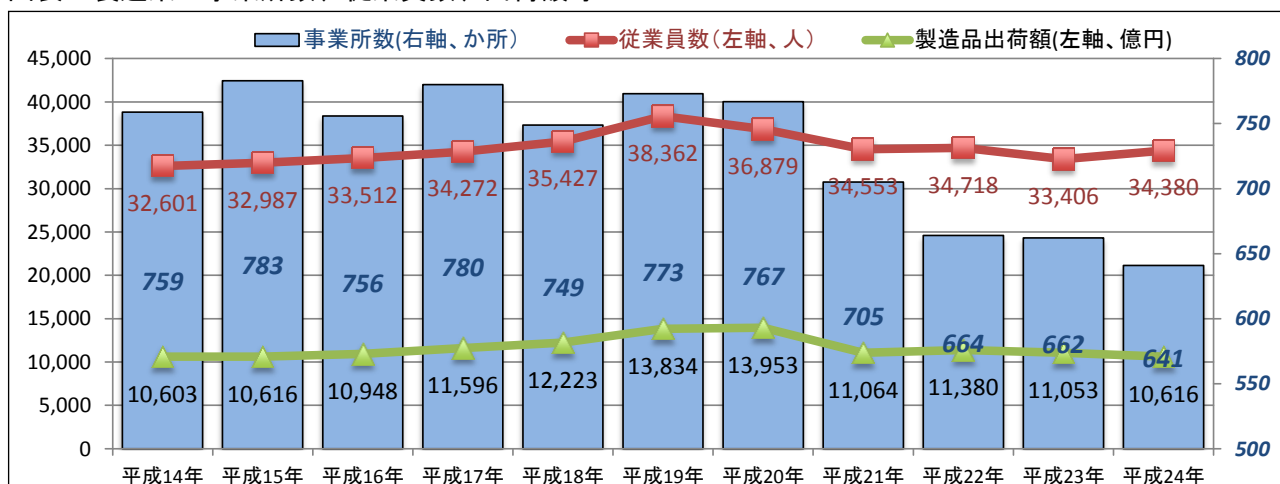


(出典：愛知県の市町村民所得)

(2) 製造業について

製造業の状況をみると、平成19～20年をピークとして、事業所数、従業員数、製造品出荷額等のそれぞれが減少していることがわかります。平成19年と平成24年を比較すると、従業員数は約4,000人、事業所数は約130か所、出荷額は約3,200億円の減少となっており、産業や経済の動向が小牧市の経済や企業経営・雇用等に与える影響が大きいことがわかります。

図表 製造業の事業所数、従業員数、出荷額等

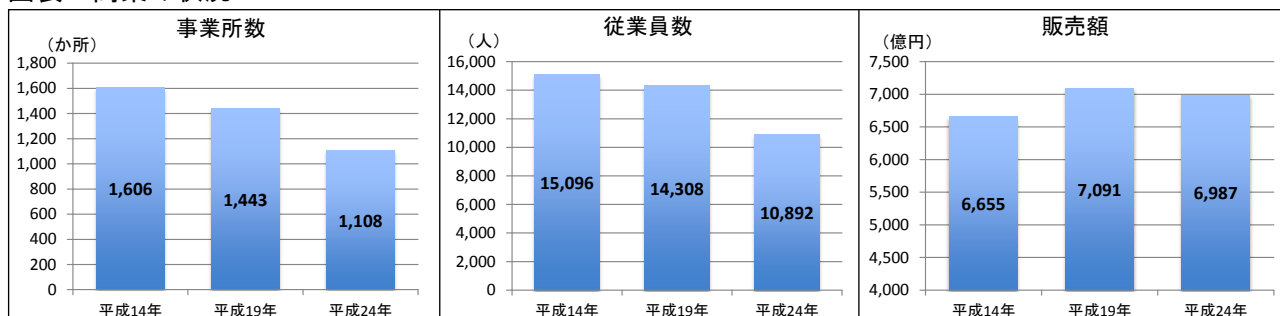


(出典：工業統計)

(3) 商業について

5年に一度調査が行われる商業統計のデータによると、小牧市の平成24年における卸・小売業の事業所数は約1,100か所、従業員数は約1万1,000人、販売額は約7,000億円となっています。平成14年と比較すると、事業所数で約500か所、従業員数で約4,200人の減少となっていますが、販売額では約300億円の増加となっています。

図表 商業の状況



(出典：平成14・19年は「平成19年商業統計調査」、平成24年は「平成24年経済センサス-活動調査」)

販売額の内訳をみますと、卸売業が飲食料品や機械器具の販売額が大きいことから、小売業の約3.7倍ほどとなっています。一方、小売業の販売額は近隣の春日井市や安城市の方が、大きくなっています。

図表 愛知県内市町村の卸売業、小売業の販売額（単位：億円）

卸売業			小売業				
1	名古屋市	214,346	74.8%	1	名古屋市	27,022	40.1%
2	豊田市	10,496	3.7%	2	岡崎市	3,427	5.1%
3	豊橋市	6,594	2.3%	3	豊橋市	3,164	4.7%
4	小牧市	5,493	1.9%	4	一宮市	3,090	4.6%
5	一宮市	5,275	1.8%	5	豊田市	3,086	4.6%
6	岡崎市	5,262	1.8%	6	春日井市	2,265	3.4%
7	刈谷市	5,178	1.8%	7	安城市	1,773	2.6%
8	安城市	5,040	1.8%	8	豊川市	1,637	2.4%
9	春日井市	2,760	1.0%	9	小牧市	1,494	2.2%
10	半田市	1,752	0.6%	10	刈谷市	1,401	2.1%
愛知県 計		286,486	100.0%	愛知県 計		67,329	100.0%

(出典：平成24年経済センサス-活動調査)

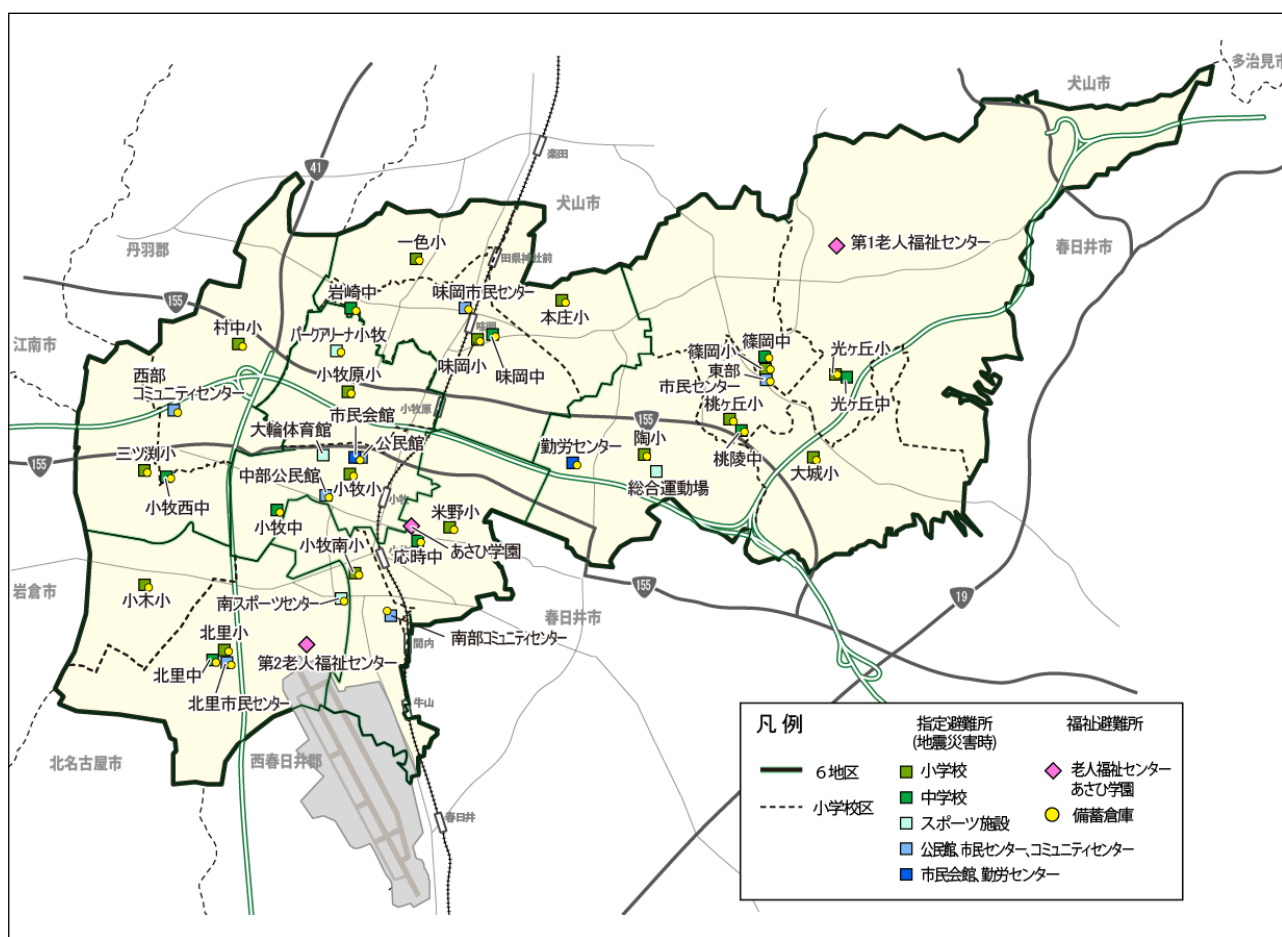
5. 防災対策の状況

市民に身近な避難所として、地震災害時の指定避難所が以下の通り設定されています。具体的には、各小学校・中学校、公民館・市民センター、コミュニティセンター、市民会館、勤労センターなどです。また、これらの指定避難所には、災害による避難者数を人口の10%と想定し、防災用の物資を備蓄した備蓄倉庫が設置されています。

一般の避難所で生活することが困難な災害時要援護者（高齢者、障がい者、妊産婦の方など）が利用する二次的な避難所として、福祉避難所を3施設設置しています。災害時要援護者及びその家族（介護者等）の方は、まず指定避難所に避難し、その後、福祉避難所の受け入れ態勢が整ってから順次避難の誘導をすることになっています。

このほかに、地震の後に発生する市街地火災から避難するための場所として、「広域避難場所」や風水害時の避難所などが指定されています。

図表 防災対策の状況



(出典：小牧市ホームページ情報をもとに作成)